

被爆・戦後80年

平和のために できること

コープぎふは「台所から平和を」をスローガンに
かけ、様々な取り組みを継続してきました。
被爆・戦後80年となる2025年、
あらためて平和について知り、
自分にできること・やりたいことを
考えてみませんか？

2025年
1/12・13

平和について 考えるつどい

円徳寺会館(岐阜市神田町)にて、被爆者の願いを継承する岐阜県民の会による「平和について考えるつどい 岐阜」が開催されました。昨年12月に日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)がノーベル平和賞を受賞したことをお祝いするとともに、より多くの人が平和について考え合うことを目的に開催され、両日合わせて約190名の方が参加されました。



▲日本原水爆被害者団体協議会
事務局長 木戸季市さん

会場では平和の歌コンサートや2010年に
行われた国連原爆パネル展で展示された
パネルが設置されたほか、授賞式に参加
された、日本被団協事務局長の木戸季市さん
と長女の堀浩子さんから授賞式の報告を
していただきました。

授賞式が行われたノルウェーの首都オスロ
での様子について、「オスロの街全体が
『おめでとう』被団協の皆さんよくおいでに
なりました」といった雰囲気、どこに行っても温かかった」と木戸さん。

また一緒に授賞式に参加された浩子さんは、「子どもの頃から戦争や父の被爆について話を聞いて、怖いな、嫌だなと思うこともありましたが、今でもその気持ちがないわけではありませんが、今回父がいろんな人から『先生、よかったね』と言われる姿を見て、すばらしい活動をしているんだと感じました」と語っていただきました。

ノーベル平和賞 受賞 概要

2024年10月。ノルウェーの首都オスロ
にあるノーベル委員会は、2024年のノー
ベル平和賞を日本原水爆被害者団体
協議会(日本被団協)に授与すると発表
しました。

受賞理由

【ノーベル平和賞2024 プレスリリース(英文)より和訳(抜粋)】
広島と長崎の原爆被爆者である「ヒバクシャ」たちによるこの草の根運動は、核兵器のない世界の実現のための努力と、核兵器が二度と使用されるべきではないことを証言によって示してきたことを評価し平和賞を受賞します。委員会は、2024年のノーベル平和賞を日本被団協に授与することで、身体的苦痛と痛ましい記憶にもかかわらず、大きな犠牲を伴う経験を平和への希望と関与を育むことにかすことを選んだすべての生存者を称えたいと考えています。



組合員に聞きました/ どんな時に平和を感じますか？

外出して忘れ物をしてその場に置きっぱなしになっていたり、親切な人が交番やお店のサービスカウンターに届けてくれる時。
(40代/美濃加茂市 りんごさん)

普通に仕事ができ、友人や家族と楽しい時を過ごすというなんでもない時に感じます。また、お風呂にゆったり入り、好きな音楽を自由に聞ける時にも日本って平和でありがたいなと思います。
(70代/岐阜市 chocoさん)



子どもたちと何でもない日にただ近所を散歩している時、「みんなで散歩楽しいね」と末っ子に声をかけられました。これ以上の平和と幸せはないなと思います。
(40代/岐南町 デイジーさん)

コープぎふ 平和の取り組み

コープぎふでは、平和行進やピースアクションをはじめとし、署名活動や平和カンパなど、平和に関する取り組みを続けています。

ぎふ折り鶴平和行進



▲岐阜市 金公園付近
2024年6月13日、岐阜市にて「ぎふ折り鶴平和行進」を行い、約60名の方が参加し、平和を願って行進しました。

コープぎふ平和憲章

コープぎふは、皆が同じ思いで平和の取り組みに関わっていけるように、組合員の皆さんから寄せられた平和のメッセージをもとに2015年に「コープぎふ平和憲章」をつくりました。



コープぎふ平和憲章を動画でご覧いただけます。



折り鶴



組合員から寄せられた平和を祈る折り鶴。お手伝いキッズにも手伝ってもらい平和の象徴「折り鶴」を折り、ヒロシマに送りました。

ピースアクションinヒロシマ・inナガサキ

組合員と職員が被爆地ヒロシマ・ナガサキを訪れ、平和について考え体感しました。



▲ピースアクション in ヒロシマ



▲ピースアクション in ナガサキ

参加者の感想

今ぼくたちは平和な世界だけど、もし広島のような原爆がおちたら、地獄のような光景になっていたから、今の平和はあたりまえそうだけど、とても大事ということがわかった。
(ピースアクションinヒロシマ参加者/11歳男児)

戦争体験聞き書き集

戦争を体験された方から当時の様子を伺い、そのお話を文字にすることで平和に対する新たな発見、そして自分自身の思いを見つけるという目的で「戦争体験聞き書き」に取り組んでいます。



戦争体験聞き書き集 第19集▲

一部抜粋

岐阜の空襲は7月9日の夜でした。寝ていた私は起こされて隣の家族と一緒に川向うの真っ赤な空を眺めました。岐阜の町中が燃えているということです。その赤色は見ている足がふるえる感じでした。今でも「夕焼けがきれいね」と人は言いますが、私にはあの赤い空を思い出してしまう決して忘れられない色です。
(88歳女性)

第1集から第19集を販売しています。購入を希望される方は下記までご連絡ください。一部はコピーでのお渡しになる場合もあります。ご了承ください。

【お問合せ】 機関運営・くらしの活動部 TEL 058-370-6873

平和のために何ができると思いますか？

小学校の絵本の読み聞かせに行きます。戦争に関する絵本を多く読みたいです。これまで「ちいちゃんのかげおくり」「まっ黒なおべんとう」などを読みました。
(70代/関市 ロミさん)



原爆の恐ろしさを伝えるパネル展などの平和活動に、積極的に参加していきたいです。
(30代/高山市 ざっきーさん)

子ども達に、日本に過去あった事を話したりする事。鹿児島島の知覧と広島へ行ってきました。子ども達はつまらなさそうでしたが、過去の日本があって今の日本がある事は忘れてほしくないなと思います。
(40代/高山市 ほそみらさん)